

100パーセントの恋愛 David/ローレンス・ピーターズ

皆さんこんにちは。ローレンス・ピーターズと申します。今日は村上春樹という作家の短編小説からの教訓と私なりの解釈についてお話したいと思います。約二年前に東アジア文学の授業で彼のいくつかの話を読まなければなりませんでした。その中の「四月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて」という長いタイトルの短篇小説が好きになりました。

主人公の男性は原宿の裏道りである女性を見かけます。彼女は彼にとって100%の女の子に違いありません。これは彼の生涯にとって千載一遇の機会ですが、逃してしまいました。好みの女性に話しかけるのは簡単な事ではありません。男性の方ならその気持ちが良く分かるでしょう。彼と彼女は擦れ違い、彼は振り向きましたが、彼女はもう人混みの中に消えてしまいました。彼は再び会ったときの為にある話を作ります。それはこのような話です。

昔、少年と少女がいました。彼らは初対面の時からすぐに「君は私にとって100パーセントの人」だと言いましたが、もう一度運命を試してみようと決めて、ある約束をしてしまいます。それは本当に100パーセントの恋人同士だとしたらいつか必ずまた会えるから、一度別れてそれぞれの道を歩むということでした。

ある冬、その2人は命にかかわるような病気にかかり、回復しましたが記憶を失くしてしまい、お互いの事も約束も忘れてしまいました。彼らは2度と会えない運命になってしまったのです。これで主人公の言いたかった話はおしまいです。

この物語の少年と少女は、若すぎたからこそそのような約束をしたのです。つまり、若すぎると知識と経験が少なすぎて、正しい判断が出来ないと言えます。一方、私たち人間は時が経てば経つほど知識がつき、いろんな経験をしていき、若い頃と比べて自分自身に対して忠実であることが難しくなっていくとも言えます。

その原宿の裏通りで100%の彼女を見かけた時には、すでに彼は若かった頃のような心を失い、彼は彼女の事に気づいているにもかかわらず、声をかけることすらできなかったのです。子どものような心を持っていれば感情を表に出し、愛を表現できたかもしれません。しかし、その感情を今まで彼が得てきた知識が押しえ込んでしまったのだと思います。ですから、どんなに時が経っても、子どものような無垢な心を保つように心がけるべきだと私は思います。私は100パーセントの彼女にめぐり合えたら絶対に逃しません。